

# 平成 30 年度（2018 年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

## 1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教主義のもと、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

## 2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
  - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
  - (2) 新人教員育成制度の導入
  - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語 4 技能の修得と国際理解を深める。
- 2、ICT 教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
  - (1) ICT 機材を用いた授業研究の推進
  - (2) AL を取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
  - (1) 火災・防災訓練の強化
  - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
  - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
  - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
  - (1) 財務説明会の実施
  - (2) コスト意識の改善

## 3. 学校評価の結果と分析

### 【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して 4 段階（そう思う(4 点)・だいたいそう思う(3 点)・あまり思わない(2 点)・思わない(1 点)) でアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

中学は普通教科、実習教科ともに各項目とも昨年より高い評価であった。特に普通教科では「わからない時は気軽に質問でき、ていねいに教えてくれる」、「生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている」の各項目で昨年より大きく評価が高くなった。実習教科では、「話し方は聞き取りやすく、わかりやすい」、「指示は的確でわかりやすくすべきことを理解しやすい」、「生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている」の各項目で昨年より大きく評価が高くなった。生徒からの信頼や満足感向上が図られたと考える。

高校は普通教科・実習教科ともに全ての項目で平均値が微増であり、引き続き高い値であった。

担任に対する評価は、高校では、全ての各項目で評価が高くなった。担任のきめ細かい指導に対し評価が高まったと考える。一方中学では、昨年より各項目評価が下がった。特に「クラス運営（管理）に満足している」、「生徒の意見や要望を取り入れ、クラス運営に生かしている」、「何でも相談しやすく、適切なアドバイスをしてくれる」の各項目の評価が低い。今後はよりきめ細かく対応する事をしていきたい。また、個々の担当者の結果には差が見られ、低い場合には個別に面談を実施し改善点を確認する。

## 【専任教員による自己評価の結果・分析】

昨年度から、教育内容に「主体的・対話的で深い学び」に関する項目、および ICT 機材の活用に関する項目の 2 項目を新たに設定し、学校運営 15 項目・教育内容 16 項目・生徒指導支援 6 項目・教員研修資質向上 5 項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の 4 段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、A を 4 点、B を 3 点、C を 2 点、D を 1 点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～D の頻度を回答合計数に対する割合 (%) で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

全項目の平均値は 2016 年度以降評価が高まっていたが、今年度ほぼ全ての項目で評価が下がった。働き方改革を試行段階ではあるが実施し在校時間の短縮などにより、厳しい評価につながった可能性がある。

そのなかで、平均値が高い観点項目は昨年同様に、「教育課程」、「情報公開」、「教育内容のその他（読書推進、部活動、学校行事、スポーツ芸術文化、国際理解）」、「生徒指導」があげられる。直接生徒の教育活動に関わる部分での評価が高い。逆に評価が低かった観点は、「教職員連携」「財務関係」、「教員研修」があげられる。指導要領の改訂を迎え、研修に参加する教員が多くなる中、研修結果を共有する機会を増やすことで、生徒への教育活動がさらに活発になると考えられる事から、継続し今後の重点課題としたい。昨年度から加えた「主体的・対話的で深い学び」「ICT 機材の活用」に関する項目は、どちらも平均値に近い評価であった。特に「ICT 教材の活用」比較的高い評価であった。新指導要領の導入に向けこれらの項目も重点課題としてより充実を図りたい。

## 4. 学校関係者評価委員会からの意見 令和元年 10 月 21 日実施

(委員) 校長・PTA 会長・地域郵便局長・学園監事・学園評議員(総務部長)

### 【平成 30 年・令和元年度実施の生徒評価について】

- ・年々評価がよくなっている事は素晴らしいと思う。
- ・中学のクラス担任の評価が低いのは何か原因あるのか。
- ・クラス担任についての設問 1 と 9 は連動しているのではないかと。  
設問 1 何でも相談しやすく、適切なアドバイスをしてくれる  
設問 9 クラス運営(管理)に満足している

### 【平成 30 年・令和元年度実施の教員自己評価について】

- ・昨年と今年で先生は、ほとんど同じなのか。
- ・多面評価は実施していないのか
- ・生活指導について、A、B あわせて（そう思うが）80%あるのは、うまく行っているのではないかと。  
ご家庭との関係もいいのではないかと。
- ・初任者のサポートが C、D に寄っているのは、もっと頑張ってもらいたい。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充 実	(1)教員間の授業参 観を推進する。  (2)新人教員育成制 度の導入を検討・ 実施  (3) 英語 4 技能の 修得と国際理解を 深める	(1)授業参観期間を設定し、レポート の提出を義務化することで授業 改善を促す。  (2)新人教員にアドバイザー教員を 配置し、授業・生徒指導等でレポ ートを作成し育成をはかる。 新人教員を対象とした教員研修 を実施する。  (3)課外活動として英語を学ぶ機 会（外部講師での英会話・英検対 策講座、TOEFL 受験対策講座） の継続。また、イングリッシュホ ーンスの利用促進やイングリッシュ シャワーの継続。 外部ネイティブスピーカーと会話出来る 機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート(以後自己評価) 教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交 換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の 値)を 75%以上にする。  (2)新人教員の相談をベテラン教員がアドバ イスする研修会を実施した。 自己評価・教員研修「初任者等、経験の少な い教員を学校全体でサポートする体制がある。」 の肯定的評価を 70%以上にする。  (3) English Communication Day をアドバンス 対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の機 会を増やした。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理 解、異文化交流など国際理解に対する教育活 動を取り入れている。」の肯定的評価を 85% 以上に保つ。	(1)2018 年度 66.6% 2019 年度前半 40.9% (×) 昨年度比 15%増であるが継 続し、授業参観の回数を増や すことで充実を図る。  (2)2018 年度 44.4% 2019 年度前半 18.1% (×) 指導回数や計画的な研修・懇 談の導入など改善し、継続し て取り組む。  (3)2018 年度 88.8% 2019 年度前半 84.1% (△) イングリッシュホリスホー ンスの活用法の工夫など、英語に触れる機 会を増やす取り組みを継続 して実施する。
2. ICT 教 育の推 進	(1)ICT 機材を用い た授業研究の推進  ・ ICT 環境の整備  (2)アクティブラーニング (AL)を取り入れた 授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に 情報収集・校外研修に参加する ・電子黒板機能付プロジェクター、初 歩ボードを備えた教室を増や す。 ・新たに Wi-Fi の使用可能な教室 を増やす。  (2)校内研修を実施し AL につい て学ぶ。校内で研究授業を実施し 全教員への普及を図る。	(1)ICT 教育推進委員を中心に研究授業を実 施。他の教員が授業レポートを作成し委員で共 有する。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 ・2018 年度、全ホールムに加え全学習室への 電子黒板機能付きプロジェクターの設置を完了 ・2019 年度全ホールムで Wi-Fi の使用が可能 となる。  (2)「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラー ニング)の視点に立つ学びに向けた教育を行って いる」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1)2018 年 69.8% 2019 年度前半 68.2% (△) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。  ・電子黒板機能付きプロジェク ター、Wi-Fi の使用環境が整う (○)  (2) 2018 年 63.4% 2019 年度前半 52.3% (×) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。
3. 危機管 理の徹 底	(1)火災・防災訓練 の強化  (2)不審者への対応 マニュアルの改訂  (3)災害への対応マ ニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施 する。  (2)校務分掌の変更など整理し、 現行の対応マニュアルの見直しを実施 する。 マニュアルを教職員で共有化し対応で きるよう訓練等を実施する。  (3)事故対応マニュアルを教職員で共 有化し対応できるよう研修・訓練 等を実施	(1)2018 年度 3 回実施した。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に 対処する役割分担が明確にされている。」の 肯定的評価を 80%以上に保つ。  (2)2017 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、 消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分 取られている。」の肯定的評価を 80%以上に 保つ。  (3) 2017 年 9 月、事故対応マニュアルを新規策定。 2019 年 5 月アフリケーの対応のためエビヘソの 使用講習およびてんかんの教員研修を実施。 救急救命講習を高校 1 年生全員、体育系クラブ 員、教員対象に年 1 回実施する。 評価指標は上記(2)と同様	(1)2018 年度 84.4% 2019 年度前半 75.0% (△) 継続して取り組む  (2)(3)2018 年度 82.8% 2019 年度前半 77.2% (△) 継続して取り組む  今後(2)(3)を合わせて危機管 理マニュアルとし、訓練や見直し を継続的に実施することで 生徒教職員の安全確保を万 全にしていく。

<p>4. カウン セリン グ強化</p>	<p>(1)カウンセラーとの連携強化  (2)不登校生徒への対応強化</p>	<p>(1)カウンセラーと教員との懇談を定期的実施する。  (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。</p>	<p>(1)カウンセラーを含め特別支援委員会を月1回、定期開催し、支援が必要な生徒の把握および対応方法が教員間で共有できた。 自己評価・生徒支援「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネーター教員を配置した。教室への登校を目標に保護者、カウンセラーとも連携し対応を強化する。 評価指標は上記(1)と同様とする。</p>	<p>(1)(2)体制が整い、生徒支援が進んだ。 2018年度 83.7% 2019年度前半 84.1% (○) 継続して取り組む。  不登校傾向のある生徒が増加傾向にあるため、対応強化に継続して取り組む。</p>
<p>5.財 務状況 の共有 化</p>	<p>(1)財務説明会の実施  (2)コスト意識の改善</p>	<p>(1)職員会議での財務説明会を実施する。  (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・コピー用紙の使用量減</p>	<p>(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間を見直し徹底を図る。 また、職員室の19時消灯の徹底を図る エアコンの設定温度の指導管理を強化する。 Classi等の媒体での連絡やデータでの情報共有を進める。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。</p>	<p>(1)2018年度 23.3% 2019年度前半 32.6% (×) 改善傾向はあるが継続して取り組む。  (2)2018年度 22.8% 2019年度前半 29.5% (×) 改善傾向はあるが継続して取り組む。 継続して重点項目とする。</p>